

## 理事長所信

一般社団法人 笠間青年会議所

第 50 代理事長

島内 良二

### <はじめに>

一般社団法人笠間青年会議所は 1965 年、全国で 306 番目の青年会議所としてこの地に誕生しました。「明るい豊かな社会の実現」のもと、創立以来受け継がれている輝かしい歴史や伝統を継承し、発展させてきた先人達の熱い想いを改めて実感すると共に、その想いをしっかりと受け継ぎ、48 年続いた不変の志を本年も絶やすことなく現在と未来に繋いで参ります。

未だ混迷する現在、それに追い打ちを掛ける形となった東日本大震災。そして今もなお、終息のみえない原発問題を含めた天災・人災は、この国で生活を営む我々に大きな影響を与え続けています。社会・経済情勢を含め我々を取り巻く環境は大変厳しい状況が続いており、青年会議所運動にも暗い影を落としつつあります。しかし、我々は混沌という未知の可能性を切り拓き、率先して行動することを宣言している団体であり、奉仕・修練・友情の三信条のもと、新たな時代を切り拓いていくことが、我々の使命であります。

全事業の成功に向け皆で議論し、協力する事で団結力が高まり、感動や友情が生まれまします。また、ポテンシャルのあるメンバーが行う運動だからこそ、得た気付きや感動を地域に発信し、個々の魅力を最大限に高めることが必要です。互いに楽しみ、協力しあうことで新しい魅力が生まれるような笠間 JC にしたいと考えております。

我々は多くの人と関わりを持って生活しています。人との繋がりがあってこそ人生だと思えます。その繋がりが仕事や青年会議所運動に活かされています。地域の方々、各所団体また各地会員会議所の同志との出会いを大切にしていきたい。そこで得られる経験が今後の青年会議所運動に繋がり、自分自身の財産となるはず。責任と気概を持って我々の運動を見つめなおし再編し、本当に価値のある目標を見定め、メンバーに活力を与え、地域に影響力のある運動を行なって参ります。

### <魅力あるまちづくり>

近年、「地域主権」や「地方分権」という言葉が騒がれていますが、言葉の使い方は違えど思想そのものは青年会議所運動において非常に重要なことであると思えます。笠間 JC と

して現状この地域は全国に誇れる地域であると言えるでしょうか。47都道府県の中で知名度は低迷し、路線価は下落しているこの地域の現状を我々は見過ごすわけにはいきません。また、我々がどれだけ地域のために行っている事業だと自負したとしても、結果として地域を巻き込んだ事業であったり、市民が参画賛同してくれる事業でなければなりません。

我々はもう一度この地域のために本当に何が必要なのか、将来この地域はどうなっていくべきなのかを議論検討し、行政や市民に対して提言していきましょう。そして、それぞれの事由に対し既に運動している団体と連携し、地域全体を巻き込んだ運動を展開していくことが重要です。「まちの魅力」とは自然環境や伝統文化のみならず、新たに我々が創造し発信していく物もあるはずです。過去だけではなく現状のこの地域の魅力を発見・発信することで、地域を巻き込んで明るい豊かなまちをつくる事業を行きましょう。

#### <地域を担う青年経済人の育成>

青年会議所は、責任世代である青年達が相集い力を合わせ、地域や企業の良きリーダーとなることを志し、メンバー一人ひとりが自己研鑽を行いながら、お互いに切磋琢磨することで成長を果たす場であります。そして、我々は青年会議所運動を行う前に青年経済人であり、地域のリーダーとして自分の家族と社員、その家族や総合的に関わる人々の生活を守らなければなりません。当然の事ながら自社の存続、発展なしにはこれ続けることはできません。

この変化の激しい時代、厳しい社会情勢において責任世代である私たちに課された問題は山積しております。その諸問題を解決して行くためには、確固たるリーダーが不在と言われる今、自分の中に一定の基準や指針を持っている「ブレないリーダー」。さらには、物事の本質を見極める力を養い「正しい判断、決断ができるリーダー」が必要であると感じております。私たちがこのようなリーダーになるための一つとして「自己資質の向上」が重要であると考えます。

そして、「自己の資質」と青年会議所の使命でもある「地域への貢献」は密接な関係にあります。環境は人を変え、人はまた環境を変えることができると言われます。自らを厳しく律し自己の資質が向上することで、地域により質の高い貢献をすることができます。また地域へ貢献することによって、結果的に自己の資質が向上することにも繋がって行きます。「明るい豊かな社会の実現」を目指すという志を持って地域の未来を創る真のリーダーが必要です。

#### <子供達の未来に向けて>

笠間市・桜川市の未来を考える上で、未来を担う青少年の育成は大人としての重要な責務です。子供達にとって、より必要な環境を創るためにも、我々だけではなく、学校や行政、地域の大人達と協働し、子供達を育む環境の中で、「子供は地域の財産」であることの意識を持ち、「地域という家庭」で愛情を持って育成に取り組む必要があります。

子供は常に大人の背中を見えています。その中で高い自立性を育むと共に、人やまちを思いやる心を育てることで、笠間市・桜川市の素晴らしい未来の担い手となる人財の育成を、地域一体となって実践していきたいと考えます。住民一人ひとりがまちづくりの担い手であり、このまちを輝かせることができる主役であると確信しています。そして、地域住民がこのまちに対する誇りを持ち、我がまちへの愛情を行動に表せる、「地域愛」あふれるまちを創造することが必要不可欠です。どんな時代でも地域ぐるみのまちづくりが、この笠間市・桜川市を輝き続けさせると確信します。

#### <これからの笠間 JC を見据えて>

今後の会員数の減少は避けなければならない問題です。会員数を維持できなければ現在の事業を継続していくことが困難になってしまいます。新しい同志である仲間と出会い、友情の輪を広げるために、先ず自分が青年会議所の魅力を感じ伝播していけるようになって頂きたいと考えます。メンバー全員が集う場を築き、その魅力を全員で拡散できるようになれば、新しい仲間も、もっと集ってくるはずです。そして全国的な会員数減少要因の一つにあげられる、「入会間もない会員の退会」に先手を打つという意味でも、入会浅いメンバー達に活躍の場を与え、青年会議所の魅力をいち早く知ってもらう仕組みを築いていく必要があります。未来の笠間 JC を築いていくのは他でもない彼らであり、また、これから出会っていく仲間なのです。

#### <仲間との繋がりが機会になる>

世の中に完璧な人はいません。どんな熱い心意気を持った人でも完璧とは限りません。だからこそ、人と人との繋がりを持ち、共に支えあえる仲間が必要です。支えるとは、仲間と苦楽を共にすることです。繋がりを持って行動を起こしていけば、新しい機会を得られることでしょう。

本年度、笠間 JC は公益社団法人日本青年会議所関東地区茨城ブロック協議会にブロック会長を輩出します。自分の世界を飛び出して、未知なる場所での運動は多くの修練があるかもしれません。しかし、その修練の先には、多くの経験と学びがあり、組織とメンバー全員の成長に繋がることでしょう。また、出向を機会に笠間 JC の魅力を県内各地へ発信し、

各地会員会議所の同志と交流し切磋琢磨することで新たな気付きを得ることができます。さらには、我々の地域に点在する課題に対して、大きな視野を持ち、常に活きた情報を得て、各々が持ち帰り活かしていくことが大切です。それは青年会議所運動の根幹が LOM にあると確信するからです。

<むすびに～親愛なるメンバーへ～>

「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。好きなことをやっている人はそのことに対してどんなことがあっても決して苦に思わず、夢中になってそのことを追求していくことで、その道のプロフェッショナルになっていきます。

今年度、各メンバーにはそれぞれに役割があります。その役割に「本気」になって頂きたい。1年間という限られた時間の役割の中で、自分の可能性を信じて行動し、存分に力を発揮して頂きたい。我々が1年間本気になってやれば大抵のことはできると信じています。また、我々は一人の力でここまで来たのではありません。親に育てられ、様々な方に教えて頂き、友人に助けられ、自分で気付いてここまで生きてきました。それを忘れずまたこの1年間を邁進して参りましょう。

私はこの一般社団法人笠間青年会議所という団体を笠間・桜川市民に確実に周知させ、日本で1番魅力のある団体にしたいと考えます。それには私1人では到底実現することはできません。メンバー全員の力が必要です。どうかこの目標のために力を貸してください。1年間、精励恪勤の気持ちでこの大役を務めさせていただきます。最後にこの言葉を今年1年の心得としてメンバーに贈ります。

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」

「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。」

「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

(山本五十六語録より引用)